

- ・身長や体重を入力し、これをもとに投与量を計算する機能を具備させる場合、年齢から算出される平均身長・体重±3SD（この値については今後検討を加える余地がある）から外れる値が入力された場合には警告を発生し、確認を要求すること。
- ・原則として、「第4版 臨床医のための処方せんの手書き方」（桐野高明ら監修、文光堂）に準じた入力方法とすること。すなわち、内用薬及び坐薬のように1回及び1日の投与量を特定できる外用薬は1日分の投与量を入力するシステムとすること。ただし、頓用薬については1回分の投与量を入力するシステムとすること。逆に、軟膏剤や点眼剤のように1回分／1日分の投与量を数値的に入力することが困難な場合には投与総量を入力させること。
- ・原則として製剤量による入力とし、成分量による入力は行わない。
- ・ユーザーの希望により前三項以外の方法（例えば成分量での入力、頓用薬の全量入力等）を認める場合には、ユーザー毎の設定にするとともに、入力した数値が何を示すのかを明瞭にすること。

○ その他

- ・システムのレスポンスとして、ユーザーが特定の画面推移を伴う動作を要求した場合、2秒以内に要求動作が完了することが望ましい。
- ・ユーザーによる重要項目の確認は、ポインティングデバイス（マウス等）によることとし、キーボードのいずれかのキー（リターンキー、エンターキー等）を一回押下するだけの動作を以て確認とするものでないこと。（これらのキーによりキャンセル（非確認）とすることは差し支えない）
- ・ユーザー認証については、今後は虹彩や血管パターンなどによる個人認証を導入することが望ましい。
- ・処方要素の選択又は確認にかかる項目の内容表示は、14ポイント相当以上の文字によること。
- ・処方対象患者の特定にあたっては、可能な限りカードリーダーなどを用い、氏名と生年月日による同定等の方法は可能な限り避けること。

研究成果の刊行に関する一覧表

著書

著者氏名	書籍全体の 編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年
澤田康文	澤田康文 (単著)	処方せん鑑査・疑義照会 実践トレーニング	南山堂	東京	2004

※注：上記書籍は、昨年度の本研究の結果を一部基盤として、処方せん鑑査と疑義照会に焦点をあてて再構成し、執筆したものである。昨年4月10日（昨年度報告書提出期限）現在未発刊であったため、本年度の報告書に添付する。

雑誌

なし